

第 5 回 福 島 町 ま ち づ くり 推 進 会 議 会 議 録

開催日	平成 22 年 3 月 5 日 (金)			
出席委員 (12 名)	阿部國雄、阿部 透、管藤光男、菊地謹一、木村末正 熊野茂夫、坂口ゆかり、寒川恵二、中塚徹朗、平沼竜平 山田正宏、山名 連 (50 音順)			
欠席委員 (3 名)	金谷由美子、常磐井武典、松谷 剛			
出席説明員 (14 名)	町 長	村田 駿	副 町 長	竹下 泰弘
	教 育 長	丁子谷雅男	総 務 課 長	川岸 勤
	産 業 課 長	三鹿 菊夫	農 林 G 参 事	工藤 昭一
	商 工 G 参 事	近藤 勝弘	出 納 室 長	本庄屋 誠
	町 民 課 長	鳴海 清春	生 涯 G 参 事	盛川 哲
	建 設 課 長	横内 俊悦	議 会 事 務 局 長	石堂 一志
	教 育 次 長	土門 修一	住 民 G 総 括 主 査	西田 啓晃
事務局 (4 名)	企 画 G 参 事	出羽 正機	企 画 G 総 括 主 査	坂口 稔
	企 画 G 主 査	住吉 英之	企 画 G 主 事	中塚 雅史

(開会 午後 6 時)

(事務局)

○皆さん、お晩でございます。この会議も 4 回目で終わろうと思いましたが、5 回目と言う事になりまして、本日まで出席を頂き誠にありがとうございます。

只今から第 5 回目の福島町まちづくり推進会議を開催いたします。

それでは始めに、熊野委員長よりご挨拶をお願いいたします。

(委員長)

○皆さんどうもお晩でございます。1 2 月に一応、この会から答申はしたんですけども、その後いくらか変化された部分、財政推計上の問題と言うのが、結構変わって来たと言うふうに聞いております。いわゆる国の方から緊急経済対策として、地域活性化きめ細かな臨時交付金と言う

ものが創設されて、第 4 次福島町総合開発計画後期実施計画事業のうちに、この交付金を活用して、いわゆる前倒しで実施する事業等が出て来たと言う事で当初のところから考えますと、結構数字的に変化が出て来たのと、まずその事が一つ、それがこの会議の中で説明する必要があるだろうと言う事が一つと、それと今後の会議そのものが、こういう変化が色々ありますので、どのような形でもって、まちづくり推進会議そのものを進めて行くのかと言うふうな二点について、今日はやって行きたいと思います。

本日の委員会は 15 名中 12 名の出席がありますので、福島町まちづくり推進会議条例第 6 条第 2 項の規定により会議は成立しております。早速会議を進めた

いと思いますので、日程の3、村田町長より挨拶をお願いします。

(町長)

○改めてお晩でございます。いま、委員長の方でお話されておりました通り、福島町行財政推進プラン、これについて或いはまた、今日の委員の皆さん方には重複されている方もおられますけども、福島町総合開発計画の後期計画、これについては先の議会に提案し、議会においては審査特別委員会の中で色々審査されて来たところです。いま、委員長が話されました通り、平成22年度からの総合的な計画の中で、経済対策等の中できめ細かな事業と言う事でお話ありましたが、22年度計画していたもの等前倒して、21年度繰越明許で実施されると、そうしますと22年度の事業等において、前倒しになる訳ですから、計画が総合的に狂って来ると、と言うような事で財政推計等が変わって来たと、併せてまた、今回の国の交付金事業、95,800千円の交付金が来ると、ですから95,800千円分の仕事出来る、全額国費で出来る訳ですが、入札減等で若干の入れ替えはあろうかと、そう言う中で町としても、補助事業或いは起債等の事を検討した時において、やはり不利な持ち出し等になるものについては前倒しでやりたいと言う事で、今回繰越明許事業の中で実施して行きたいと言う事でございます。それと併せまして、それに伴って後年度の基金の残高だとか、そう言う事も変わって来る訳でございます。どうぞ一つそう言うような実情の中で、今日この限られた時間の推進会議になりますけども、どうぞ一つ委員の皆さん方におかれましては、忌憚のない意見を出して頂いて、3月の議会に再提案、私共の方では再提案させて頂い

て、4月からスムーズに走りたいと、そういう意向で議会の方とも事前協議している所でございますので、何分にもご理解を頂きながら、取り留めのないご挨拶になりましたけども、私の挨拶に代えさせていただきます。一つよろしくお願ひいたします。

(委員長)

○町長どうもありがとうございました。それでは、会議日程の4、(1)福島町行財政推進プラン財政推計表の変更について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

○それでは、1ページをお願いします。案件(1)財政推計表の変更について、①福島町まちづくり行財政推進プランについて、12月11日に取りまとめをして町長の方に報告を頂きました。その報告を基に協議を重ねて、福島町まちづくり行財政推進プランを別冊にありますけども、後ほど説明しますが、出来上がったものでございます。②ですけどプラン策定までの経過等についてと言う事で、3月5日現在で、一番下の方に今日の5回目の会議の開催でございます。先ほど町長の方からもありましたように、一旦取り下げて、財政推計表を差し替えまして、新たに提出すると言う事で、いま動いております。それから(イ)ですけども、庁内協議の検討と言う事で、福島町まちづくり行財政推進プラン報告書が提出されましたので、第4次福島町総合開発計画後期計画策定に当たり、基本計画に対する議会からの提言や実施計画の見直し等による財政推計の再検討等、三役協議、管理職会議で庁内協議を重ね、福島町まちづくり行財政推進プランを取りまとめたものであります。2ページをお願いします。

パブリックコメントを実施しました。結果としては、どなたからもご意見はございませんでした。それから(工)福島町議会調査、審査特別委員会開催状況なんです、11月26日に調査特別委員会、12月21日に調査特別委員会、1月19日に議会に対しまして、プラン案を提出しました。その後、同日の午後から審査特別委員会に入っております。2月17日に審査特別委員会、2月26日に審査特別委員会を終わった後に取り下げをしております。そして3月11日に議会に再提案する段取りになっております。③ですが、福島町まちづくり行財政推進プランの取り下げと再提案について、これまでの第4次福島町総合開発計画(基本計画、後期実施計画)調査、審査特別委員会の質疑、意見等において、答弁等を踏まえ、また審査特別委員会開催期間中に地域活性化、きめ細かな臨時交付金により前倒し実施する事業を計画掲載から削除し、交付金事業移行財源を利用し新たに追加、変更が必要な事業を三役協議、管理職会議で庁内協議を重ね掲載することになり、見直し等による、福島町まちづくり行財政推進プランの財政推計を変更して再提出するものであります。そのきめ細かな事業について、それから新たに加える、それから変更になったものについて、主査の方から別紙の資料で報告させていただきます。

それでは説明をしたいと思います。皆さんの所に第4次福島町総合開発計画後期実施計画集計表と言う事で、10ページ物の別冊の資料があると思います。これが財政推計をする際に、普通建設事業につきましては、後期実施計画に搭載して事業等を基に財政の推計をしていると言う事になりますので、今回町長の挨拶の方でもありましたけども、国の方で地域

活性化、きめ細かな臨時交付金と言う事で、これが創設されて、福島町においても95,800千円の交付金が交付されると、その事業を今回後期実施計画に掲載していた事業の中から前倒して実施してやるものでございます。こちらの集計表のご説明をいたしますけれども、まず、項目の横に区分と言う事で、削除と言う事になってございますけども、ここの区分の削除と書いてある所が、交付金事業に移行するものと事業主体を見直ししたり、実際すでに事業を前倒し実施した部分について、後期の計画の方から削除すると言った項目を区分の中で削除と言う事で区分をしてございます。その削除の項目の1ページ目の中ほどの所に、産業振興支援事業と言う事で、その隣に追加と言う事になってございます。ここの追加と言う所の区分の所から、前倒して交付金事業へ移行したもののものを利用してと言うか、そこの空いた所に新たに事業を追加すると言う部分の所を区分の所で追加と言う事で整理をしてございます。中の細かい事業について説明をさせていただきますけども、次の2ページ目の一番上に福祉センター集会室外改修事業、これも追加と言う事になるんですけども、その次の項目から、今度は3段書きになってございます。ハザードマップ作成事業が、上の段から変更前、変更後、増減と言う事で、600千円から552千円に変更になったと、増減がマイナスの48千円減りましたと、ここの3段書きで整理している所につきましては、既に平成22年度の予算につきましては、今度の3月11日から開催される、3月会議において、町として予算案を提案すると言う事で考えている部分の、今現在変更後の部分が計画に対して、これだけ増減したと言う所を3段書きで整理をして

ございます。それが8ページまでそういう事で、計画に対して平成22年度の予算案を整理した項目が8ページまで続いてございます。その一番下の欄で合計の①(一般会計)という事で、その増減が22年度あれば事業費全体でいまの変更部分を含めて、交付金事業へ移行したものの、新たに追加したものの、平成22年度の予算を整理したものの、その合計が①という事になります。平成22年度で言えば全体の事業費で35,755千円がマイナスになると言う事になります。右側の方に移行して頂いて、平成22年度から26年度までの全体の事業費とすれば、13,465千円が計画期間内では、全体の事業費が減になると言うものでございます。次の9ページにつきましては、水道事業会計も同じようにして平成22年度の予算を整理したものでございます。10ページ目をご覧ください。最後のページになるんですけども、水道事業会計の②という事で、水道事業会計自体は平成22年度あれば、全体で29,649千円が減になると、言う事になります。22年から26年までの5カ年の計画の中では、事業費全体は2,451千円が増になると言う事になります。次の修正前合計と言う表になりますけども、これらのものをいま現在、まちづくり推進会議での財政推計を示している基となっている部分が、修正前の合計と言う事で、実施計画の数字なる部分で、その修正前の合計と今回の一般会計の事業と水道事業会計の増減したものが①プラス②と言う所になります。一般会計、水道会計合わせて平成22年度あれば、全体の事業費は65,404千円減になります。22年から26年までの合計であれば11,014千円が減になるものでございます。これら修正前の合計から増減を引いて、最後の修

正後の合計と言う欄になるんですけども、これが最終的に福島町で今回後期実施計画として考えているものの、最終的な数字と言う事になります。平成22年度であれば全体事業費で307,327千円、22年から26年までの合計で言えば2,750,775千円の事業を福島町で実施をして行くと言う計画になります。ちなみに財政推計の部分につきましては、水道事業会計自体は推計の中には含まれませんので、ここの部分につきましては、実施計画が一般会計と水道事業会計であれば、これだけ増減があると言う事を整理したものにしますので、よろしくお願いしたいと思います。以上です。

続いて、会議資料の3ページをお願いいたします。今の報告をお聞きになったと思いますが、それによりまして変更前の平成26年の年度末で3億4千万円と言う金額が、変更後では26年度一番右下になります。3億23百万円と言う事になります。それで今日別冊となる議案をお配りしております。多分委員の皆様方にはプラン案と言うものを配布されていると思いますので、議案になったものについて、どの辺が変わっているかについて、ざっと説明して行きたいと思います。1ページ2ページについては変わりはありません。3ページについてもその通りです。4ページについては、各影響額等が示されているので、それはきちんと町民に分かりやすいように示す方が良いでしょうという事で、人件費の効果について全体的に表しております。5ページについては、1として第3次福島町行政改革大綱について、2として第4次福島町総合開発計画後期実施計画策定の基本的考え方についてを加えております。6ページですが町税については、収納額もあるのであれば滞納額もあるだろうという事で、

滞納額の状況の資料を付けております。7ページについても使用料等について、滞納額の推移を付けております。(3)の福島町ふるさと応援基金については11月30日現在のもので変わりはありません。8ページをお願いします。(2)の職員の人数なんですが、職員の定員適正化計画を表した方が良いのではないかとする事で表を付けております。9,10,11ページは変わりありません。12ページから23ページまで、町民に分かりやすいようにと言う事で、平成18年の自立プランを実施した時の、当初予算と平成21年度の当初予算と比較して、どれだけ推移があるのかと、現状維持としても数字で確認出来た方が良いのではないかとする事で、数字を加えております。それが23ページまで続いております。それと25ページになります④として財政推計表が差し替えと言うか、中身が変わることになります。それと27ページの参考資料別表1と言う事で、今の新しい事業等を加えたものを、その数字で入れ替えになっております。訂正をお願いします。26ページの下から10行目、3億4千万円とありますが、今日この会場の場で指摘頂きまして助かりましたが、3億23百万円に訂正願いたいと思います。その上で28ページに推進会議の第5回目の会議を開催したと言う事での資料の内容でございます。大変簡単ですが、説明に代えさせていただきます。審議方よろしくをお願いします。

(委員長)

○いま、説明して頂きましたけども、確認する事だとか質問、その他ありましたらお願いします。

(委員)

○水道事業なんですけど、今回議会に提

案されている孵化場の揚水による、近辺の井戸が出なくなった家が4軒あって、それに対して、要するに揚水ですから井戸ですよ、それがいま水道でやると言う事でやっているみたいなんですけど、これはこの予算には反映しているんですか。

(町長)

○あれはサケ、マス孵化場の事業ですから、サケ、マス孵化場の方で全額出す事です。

(委員)

○分かりました。

(委員長)

○外にないですか。

(ありませんと言う声あり)

(委員長)

○特にならぬんですけど、私の方から良いでしょうか、開発計画の委員会の中で同じような事が議論されているみたいですけども、最終的にこれだけの95,800千円が入って来て、前倒しの事業と言う事で、トータル的に最終的に変化させた推計表を見て見ると、そんなに26年度末のあれ、3億4千万円が3億23百万円になったと言う形で、そしてやらなきゃならないような事業が、この形でもって結構またきめ細かくやられたと言う事なんで、そんなに大勢には影響がないですよ、結果として町として実質的にはどうなのかなと、これだけの事業をやって行って、当初我々色々なもので、やらなきゃならない事だとか、町をこうしたいあほしたい、こんな事もやってほしいと色々な事が出ていた事もあったような気がするんですけども、その上でこの数字から行っ

て、町にとっては、町民の生活そのものにとってはプラスの方向に働いていくと言う事で、確認して良いんですか。

(町長)

○自立プランの時には、逆に言うと我慢してもらったり、そういう傾向にありました。そう言う中で一定の基金を積む事が出来ました。ですから基金を積んだと言う事は、今度それを逆に産業振興だとか、そう言うような遅れている事業等について、どのように反映して行くかと言うのが、やはりこれからの5年間の開発計画なり、そして住民の方々に負担を伴わないような形の中での事業計画を組まなきゃいけない訳です。その結果としてはやはりどうしても、高齢化が進んで税金、町税の歳入と言う事は、目減りして行くと言う事は確かです。ですからどうしても基金を取り崩した中で、一方では産業振興等の中で税金をいかに上げれるような態勢を作るだとか、それからまた福祉だとかそういう事について、やはりきめ細かい事をやって行かなきゃいけない、それと併せて既に平成22年度からの中ではまず、先般道新にも触れられておりましたけども、町の予算としては中学生の女生徒を対象に子宮頸がんのワクチンをやる、或いはまた今日のこの資料の中にもありますけども、チームアンドティチャーですか、学校が統合した事によって、やはり福島中学校としての教育をレベルアップもして行かなければならないとかそういう事でやはり個々にやって行くと、そんなにお金があるからどうだと言う事ではなくして、これからの福島の町を進める中で必要な予算、開発計画を組んだ結果として3億23百万円の26年度末では、単純な計算ですけどもそういう財政推計になりますよと、ですから自立プ

ランのやっている経緯等から行くと、これを多分職員も含んで3億2千3百万円の基金をよほどの事がない限り、これに上乘せはなったとしても、私自身はこれより下がる事は無いのではないかなと言う思いではおります。

(委員長)

○はい、それではこの推計表の変更についてはあまりないようなので、この原案通り承認する事でよろしいでしょうか。

(はいと言う声あり)

(委員長)

○それでは日程の5報告事項のこれからの福島町のこの会議そのものの進め方について、事務局の方から。

(事務局)

○4ページをお願いします。一番裏になります。報告事項(1)福島町まちづくり推進会議所掌事項について、平成22年度の福島町まちづくり推進会議としての開催目的は、4項目の中から重点的にテーマを設定して協議し町長に報告する事となっておりますので、行財政の実効性について検証、行政評価を行うと共に、まちづくり基本条例に基づく町政の進展や福島町の将来について真剣に議論し提言、提案をし、持続可能な行財政の推進に努める事としたい。今年のテーマについては検証と行政評価が主でございますが、ふるさと応援基金に関する事項についても町の方で色々と子育ての関係、高齢者対策の関係で色々と事業を予定しております。そう言う事で、出来れば色々な事業でこの基金を生かして行きたいと言うふうに考えておりますので、色々な場はこちらからの資料提供と言いますか、議

案を提案して行きたいと思っております。それと4番のその他行財政の運営に関する事項と言う事で、去年の4月の第1回目の会議の時に、皆さんからご意見ありましたように、まちづくりのための会ではないかと言う事で意見がありましたので、今回は例えば少子化対策とか雇用対策とか高齢化の福祉対策とか、色々と重点的なテーマを設けて、色々とこれから協議して行きたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。それで開催時期についてはですね、これから内部協議をして、皆さんの方にお伝えして行きたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

(委員長)

○いま、会議の事について説明を入れたんですけども、何か質問か意見ないでしょうか。

(町長)

○これは私からのお願いなんですけど、この推進会議やはり年に2回くらい、検証も含めて何とか集まってもらって、色々な意見は出して欲しいなと、それと併せて、いま民主党政権になって、今度の4月から本格的な民主党政権の国の方の予算が動きます。まだまだ私共も情報の収集に努めておりますが、ちょっとまだ不透明な所もございます。ですから国の動きの中のそういう政権が変わった中で、やはり皆さん方に情報提供したり、町のこれから取り組む事、財政推計等も併せた中で、評価も含みながら検証は是非してもらいたいなと、そのように思っております。それと特に今回のこれには具体的にはなっておりませんが、福島商業高校でいま就職が出来ない人が何名。

(教育長)

○13名です。

(町長)

○まだ13名くらいまだ就職が出来ない人がいると、昨日か一昨日の新聞で北海道で2百何十名くらい臨時で、例えば入りたいとかそういう事がありました。それで私共もこう言う状況を色々見て行くと、やはり町でも一定のそういうなんて言いますか、半年で良いのか、一年で良いのかは別にしても、そういうような臨職採用と言う事も、時には年度途中に於いても検討しなければならない事があるのかなとそのように思っております。ですから、その雇用の関係については組合を含んだ産業団体とも相談しながら、一人でも多くの若者が地元で、やはり残れるような、そしてまた地元としての自治体として職場の確保と言う事については、やはり今までの考え方をもっと進んだ中で検討して行かなきゃいけない事なのかなと、この商業高校も始まって以来だそうですね。いま現在で十数名の就職が出来ない方がいると言う事について、ですからこういうような事を町内の全般の動き等もこれから皆さん方と協議しながら、時には計画になくても入れなきゃいけない、そういうような事も出て来る事があるんでないのかな、そういうような予想はしております。

(委員)

○卒業生何名に対して、十数名なんですか。

(教育長)

○卒業生は29名だったと思います。

(委員)

○そしたら40パーセントくらいですか。

(教育長)

○そうですね、ただアルバイトだとかが
決まった子供が2名、失礼しました。就
職希望が29名ですね、その外に進学希
望もあります。それで就職決定が14名、
アルバイトが決まった子が2名、あと13
名が残っていると言う話では聞いており
ました。

(委員)

○その13名と言うのは職種にこだわっ
ているのか。

(教育長)

○基本的にはやはり色々な希望の職種が
あって、この前卒業式があったんですけ
ども、引き続き学校も含めて職安だとか
を通じて職を探す手段は講じていると。

(委員)

○ま、だから、IT企業に行きたいとか、
そういうこだわりはないのか。

(委員)

○販売だとか、商業の部分だとかで好み
はあるでしょうけども、中々道内、特に
管内の中ではそういう要するに就職の部
分を含めて無いと言う形が大きいです。

(委員)

○分かりました。

(町長)

○ま、あの教頭先生、進路指導の先生
が来まして、役場に来て、私が町長にな
って初めてです、役場で生徒を何とか雇
用出来ないでしょうかと、こう来たのが
初めてです、だから今年、総務課長一人
だな。

(課長)

○一人です。

(町長)

○正式に高校から推薦で一人役場の方
に入れてもらう、入って頂くと言う事で、
これは学校推薦と言う形の中で、それは
学校の方から。

(委員)

○それは正職員ですか。

(町長)

○とりあえず臨時で。

(委員)

○それは臨時と言う事で、6ヵ月、6ヵ
月の更新で。

(町長)

○そうです。

(委員)

○それは、基本的に6ヵ月、6ヵ月なん
けども、また来年度になるとそう言う
問題が出て来ますよね、そうなって来
ると6ヵ月、6ヵ月の間に違う仕事を探
しなさいとか、それとも6ヵ月、6ヵ月
で違う人間を採用するのか。

(町長)

○その辺がやはり町としても課題として
出て来るんですよ、と言う事は私共も高
校側と面談した時においては、お願いし
たのは、やはり役場に入る間に翌年の公
務員試験を受けるような気力、そう言う
頑張る子、出来たら推薦してくれませ
んかと、そう言うお話をした中で推薦は
受けていると、その子がうまくそうな
てくるとですね、町の方もやはり一次試験

を通らないと、退職者の補充等に於いてもとにかく、渡島、檜山の一緒にやる一次試験さえ合格してくれると非常に心強く感じるんですけど、まず学科試験が通らなければどうにもならないものですから。

(委員)

○高校の推薦で正職になれるなら一生懸命勉強して通った人間がちょっとおろそかになるんじゃないかなと言う事が聞き取ったので、そこだけ答えて頂ければ。

(町長)

○ま、とにかく大変ですね。そういう面ではこれから推進会議の中でも、そういう動きの方も皆さん方と時には情報交換をしなければならぬ事もあるかなとそのように思っています。

(委員)

○これ、別に臨時で半年しか雇えないんだけど、どうだと言う話でも構わないのか。

(教育長)

○基本的には、よくある形ですけども、通常臨時雇用であれば半年ですよ、ですから9月まで、まず臨時雇用すると、その後についてはその間に新たに職を求めようとする努力をするという考え方もあろうかと思えます。

(委員)

○分かりました。

(町長)

○ウニセンターだとかコンブの種苗センターの方で何とか、本当は若い人を入れて育ててくれると非常に有難い。

(委員)

○ナマコでもやってくれるなら、ナマコの管理でもなんでも、臨時一人を入れてやるようにすれば組合としても、町としても良いのではと思います、ちょっと聞いてみました。100パーセント出来るとはちょっと言えないんですけども。

(委員長)

○外にないでしょうか。

(委員)

○余談になりますけども、いいですか。3ページの表がありますよね、この5ヵ年計画の、22年度では8億5千万の基金が残って行くんですけども、要するに最終年度まで行くと、ずっと1億いくらじり貧ですよ、食い潰して行ってる訳ですよ、町長おっしゃったように、この数字をなんぼ上乘せして残すような努力をしたいと言う考えなんですけど、見てのとおりグラフで表せば確実に下がって行く訳ですね、もう少し残したいと言う考えもあるし、何か突発的な事でもって食い込む場合もある訳ですよ、これを少なくとも水平、或いは上向けるためにはどうするんだと言う、町全体でどうするんだと言うような考え方を今後、この推進委員会でまちづくりですから、この数字を逆に上乘せして行くためにはどうするんだという具体的なターゲットを絞った事で、それは各種色々の事業が新規事業も含めて、そういうテーマを持ち込んで、これを下がって行くのでなく基金をまだ上乘せして、残して行くんだと言う考え方までならなきゃ、本当の意味じゃないんじゃないかと思うんですけど、希望はそうなんですけど現実には難しいかも知れないけど、難しい難しいと言っていれば何も良い案が出て来ないと思うので、

この辺は特に役場もそうですけど、僕ら委員も2年間の任命期間で任命されたから、何かかにか見つけ出して、どうだどうだとやらなきゃいけないんじゃないかと、ただ物事は昔からあれですけど、桃栗3年、柿8年と言って、一つのものが実るまでには、一番早くても2年、3年掛る訳ですよ、こういう時代ですから一つのターゲットを絞って金になるまで、事業になるまでにはやっぱり5年や6年、長いものは10年くらい掛るかも知れませんが、そういうような芽を出すような作業も、この推進委員会のメンバーの中では常日頃考えとかなければならない事ではないのかなと、これはちょっと余談ですけど。

(委員長)

〇いまの話と言うのは、報告事項の2の所のいわゆる提言だとか提案と言う一つの大きな意味になってくるのかなと思うんだけど、実際その辺で26年度までの財政推計の中で、産業育成だったり、また教育だったり、そういう分野に色々な形で自立プランで残して積み上げて来た8億数千万のものを、もう一回ここ5年間の中で、使って行きながら町の形を考えて行かなければならないと言う状態に恐らくなっているのだろうと思うんですが、その辺の所でもって実際にこの委員会の中でこれから、さっき参事の方から言われたんですけども実際には検証だったり、財政そのものの推移の点検だったり、そういう委員会の役割りと同時にまちづくり条例そのものに、この町をどう言う方向に持って行くのか、どう言う形で作って行くのか、どうやって発展させるのか、そこところが非常に大きな課題になってて、1年間やって見てどうしてもそこところがこの委員会の中では、

自立プランの結果として、これからどうしようと、財政そのものをきちっとした形で維持しながら、発展させて行くと言うふうな方向性が、まだまだ委員会の中では出し尽くされていないし、また議論のきっかけが中々つかめていないと言うのが現状のような気がしてて、私自身もこの会を取りまとめて行くに当たって、開発審議会との横並びの絡みだとか、そういう事もありまして中々何かこう不完全燃焼しているような想いの部分もあるんですけども、その辺の事についてこれからこの数字上の事を検証する中で、出来れば私たちの任期は、今年の年が明けてからは1年と言う事になるんですけども、その中で方向付けを出来るだけして見たいなと、さっき参事の方から言われた事も、その辺の事を含んでのこれからの会議の中の会の持って行く方向と言う事なんだろうと言うふうに理解していたんですけども、それでよろしいですかね。

(事務局)

〇はい。

(委員長)

〇どうですかね、その辺の事について、●●委員の方からそういう話が出て来たんですけども、各それぞれの団体の方だとか、もっとやっぱりこの予算を見て、数字を見て、例えば漁協さんの方からこんな事業の中にもっとやっぱりとか、福祉の方だったらこういう所に財政的な配慮をしてほしいとか色々なものが出て来ていいんじゃないかなと思うんですけど、どうでしょうかねそれは。

(委員)

〇いま、●●委員が言った事とは反対の

意見になってしまと思うんだけど、うちらが一生懸命検証した中で、これが精一杯だと、どうしても削る所はないよという形で一応出している。これ以上上積みしようとなると、じゃ前に戻ってしまって職員の給料をまたカットしなければ駄目だと、そう言ったものが出て来る、だから最初からそう言う意志で行くならば職員のカットした分を戻さなきゃいいだろうし、だけど一応健全化がなったんだから、そのために職員の給料を今まで泣いてもらったんだから、その分を元に戻しましょうという形でやっているんだから、いま私が考えているのは、これよりもまだ減る事の方が多いいんじゃないかと、増やす事はちょっと考えにくいよと、だから積んでいる基金が、これが終わった時に26年度には2億なんぼくらいになって来ると思うんだよね、と言うのはこれから色々な産業にしろ観光にしろ色々な部分で出費が多くなると思う、これだけのデフレ傾向続けば余計そうなると思う、その中でこれを貯蓄して行こうと考えてこのまちづくりをやって行くんでなく、これを維持した中でどれだけこれに近付けて持って行けるかと、余りにも傷み傷み傷みと言うのだったら前と同じになってしまう。ま、言葉は足りないんだけど、これに上積みを考えるのではなく、これに近付けて行くような形のもので、産業にしろ色々な部分に対して、出来て行かないかなと言うふうに私としては考えているんだけど、余りにも傷み傷みとなると増やそう増やそうとなると、どこかに泣きはきますからね、絶対、一番最初に泣いてもらうのは職員しかいなくなってくる、簡単に考えればね。だからいま折角元に戻って喜んでいる所なのだから、もう少し5年6年なりでも、夢を見させてあげて、そこからまた泣く所

は泣いて貰うと、言うものでは。

(委員)

○そう言う考えもあるんですけど、私はこの数字にこだわらないんですよ、ある意味においては、例えば新規事業が何かひらめいたと、これをやって見ようとなった時には、この中から5千万でも1億でも投資したらどうだと、それで更にその5年後にその投資効果が倍になって帰ってくるんだと、倍になって帰ってくるのは1回帰ってくるんじゃないかと、継続的に将来ともずっと帰ってくるのであれば1億投資して5年後に1億ずっと利益が上がっているのであれば、これが3億なんぼ残らない、これを1億削って、2億何ぼでも良いんですよ、そう言う投資効果、経済効果があるような物まで頭の中に入れて、色々模索しませんかと言う事を言っている訳ですよ。

(委員)

○そう言うふうに言ってもらえば分かるんですけども。

(委員)

○両者中々いい議論になっていると思うんですよ、要は私達の町は、この数字が示すように、将来全く希望がない、けれどもここに住み続ける私達としては、そうであってはならない、そういう両者の議論だったと思うんですよ、ですからこの場を山名委員が言うように、新たにすぐ事業を立ち上げると言う事は可能性は薄いんですけども、こう言うメンバーで折角ですから、例えば外の町の成功事例なんかを集めて頂いて、我々がそれを学んで、この町はこうじゃいけないという雰囲気だけでも、この場が作り出すと言う事が重要なのではないかと思うんで

すよね。テレビを見ると結構成功事例がありますよね、そういう事でもいいと思うんですよ、ここでこの町がどういう可能性があるのかと言う事をやっぱり気持ちだけでも高めて行かないと、何のためにこの町にいるんだと言う事になりますよね。

(委員)

○そうなんですよ、ですから意識の高揚と言うか、何を夢見ているんだと言うのでもいいんですよ、それでも何とかしなきゃならないと言う中で様々なアイデアが出て来て、今まで潰されていたアイデアが逆に、それちょっとまな板の上上げて、もうちょっと深く検討してみようやと言うような事だってあるかも知れないんですよ、そういうものを探す。

(委員)

○ですから、やる、やらないは別にして、そういうやっぱり我々の気持ちをしっかりさせると言う事は大事な事では。

(委員)

○役場を別にしても、僕らの委員会ですらそういう機会があったら、そういう事を行った方がいいんでないか。

(副町長)

○委員長、いまそういう議論をここではそこまでやらなくてもいいのでは。

(委員長)

○分かりました。その辺の所と言うのを、テーマを、いま言われたようなテーマをやっぱり出して行きながら、ここの中で議論して行って、そして財政との睨みの中でもってやって行かないと、この会そのものが、自立でここまで持って来た、

さあ次の所がね、やっぱり見えて来ないと言うねどうしてもその所だと思っんですよ、だから例えば水産の方で言うともう何十年も前からコンブでね、基幹になってますよね養殖事業そのものが、そしていまここで出て来ているのはナマコのあれになって来ていると、第二のコンブの養殖事業に代わって行けるような、第二のナマコそのものがこの産業として大きくなれるような、そういうふうなために、例えばこれはいま入口になってんだらうと思うんですよ、そういう提言をしながら、じゃ財政的にここで出している金の額がどうなんだろうかと、果たして例えばこれが5年後になったらそれが、第二のコンブみたいになって、町の基幹のいわゆる養殖事業に繋がって行くんだらうかと言うふうな裏付けを数字的に見ながら、それを提言して行ける、そういう議論をやっぱりどんどん進めるべきなんだろうかと、で、その議論の結果を踏まえて、総合開発計画の方にまた更に提言をして行けるだとか、そんな議論の輪にして行く必要があるのかなと、そうしないとこの2年間とか26年度までのこの4年間と言うのが、この3億いくらと言う話だけの議論でもって、確かに●●委員が言われたように、この所の維持と言うのは非常に我々にとっては大切な事なんだけども、その同じ金を使う形であってもその方向性を見いだせるような方向の議論をしたいと、言うふうな形が望ましいのではないかとと思うんですよ、そうしないと。

(委員)

○理想はもちろんいいんですよ。間違いなくそうなんだけども。

(委員)

○理想はいいんですよ。

(町長)

○ですから今年、いま初めてナマコに取り組もうとしていると、だから同じナマコを、いま上の国では10,000万円、20万個の単位でやろうとしている、町で9,000万円を投資すると言う、ですから近間でもそう言う所があるし、ですから逆に、いま町が新規で取り組もうとしているもの、例えばこれは農業の方もそうなんですけども、そう言うものに対して今の、推進会議の皆さん方もやはり前向きに検討して頂き、いやこれはもっと思い切って進めて見るべきでないかとか、これはちょっと控えめにしてみたらどうかとか、もうちょっとデータなり何なりを見たらどうかとか、そう言う議論と言うのが今まで、具体的に例えば事例を上げてそう言う議論と言うものがなかったものですから、どうしてもこの数字、これとの睨めっこだけの事が多かったんです。これからはやはりさっき言ったように、人は間違いなく減って行きます。高齢化が進んで行きます。金が掛る事は間違いなく掛って行きます。そう言う中で町の人が安心して住める町、それはやはり一定の財政も保たなければないと、そうやって行った時には、企業が何処か来てくれれば一番いいんですけども、そう言う時代でもない、そうやって行くとやはり産業振興なり、他所から人を呼ぶような思い切った事をどうするか、そう言う事がやはりこれから具体的に議論される事でないのかなと、そう言う事なんですよ、これからの推進会議の中では財政推計もそうですし、或いはまた行政評価に対する、これも大事ですけども、やはり推進会議としては、もっとこうや

るべきだとか、例えばいま管藤さん当たりは、シイタケだとかブルーベリーだとか色々な事を取り組んでるけども、それはもう思い切って例えば町で支援してこう言う事でもっとやらせて見たらどうかとか、そう言う事がやはりこれからの福島町にとっては大事な事ではないのかなとそのように思っています。皆さん方の意見も確かそう言う事でないのかなと思っています。ですから時には畳の上での会議も良いでしょうけども、近間で例えば取り組んでいる所があったら、ちょっと行ってやはりそう言うような、また来て頂く事だとか、そう言う事がこれから必要になって行く大事な事ではないのかなと、そう思っていました。

(委員長)

○これはそう言うふうな意見、色々出て来てあれなんですけども、ここの会議の中にもう一つ、財政のいま出動させる方向で応援基金があるんですよ、今いくらですか。

(事務局)

○いまは、10,000千円くらいです。

(委員長)

○このことの出動のさせ方も、大きな我々の課題になっているので、全然動いて行ってないと、その事も含めてきっかけ作りの恐らく形での財政的な例えば1年、2年くらいのスタートラインに付けられるぐらいの応援基金の活用の仕方もあるだろうと思うんです。この辺の事についても皆さん、何かこうないですかね。ずっと私自身も悩んで、考えて来ているんですけども、これはどう言う形が良いのかなと言う思いがあるんですけども、どうですか。

(事務局)

○それについては、次の会議まで色々と練って頂いて。

(委員長)

○いいですか、それで、では応援基金については、この次の会議の時までと言う事で事務局の方でも、また恐らく練る事があるんだろうと思いますので、それを待って出して行こうと、いいですかそれで。

(はいと言う声あり)

(委員)

○ちょっと意見はありますけども。

(委員長)

○よろしいですね。

(委員)

○提案なんですけども、我々の任期はあと1年くらいしかないと思うんですが、まちづくり推進会議の全体としての、何と言うか寿命と言うか、期間と言うものをどのくらいもつか、それまでのタイムスケジュールをきちっと次の会議まで出してもらいたいと思うんですよ、例えば3回、あと1年間で3回の会議を開いてその中でどういう話し合いをして行くのかと言うのが見えて来ないと、我々の話の提案の仕方がないんですよ、で、もうリアリティーのある現実的な数字の話はもう終わったと思うんですよ一回、それを一回置いて、次にはホラ話でもいいと思うんですけども、ちょっと明るくなるような気持が、夢のある話を少し、それぞれ皆さんお考えはあると思うんです、一つや二つは、それを出して頂いて、可能であればそれを少し議論させて頂い

て、その中から例えば町の方でこれはもしかしたらと言うのがあれば、吸い上げて行ってもらえば良いと思うんですよ、その道筋を少し、スケジュールを次の時に提案して頂ければなと思います。余裕はいっぱいあるんですよ。

(委員長)

○一定の数字的な事で、これで報告でもって3月の議会を通してしまえば、もう動いて行く訳ですね実際の話は、だからその次の段階の話で、中々1年間その事もまとめて議論と言う事だったんだけど、この数字に追っかけられて来て、会議そのものの中々余裕がなかったと言う部分があったと思う、だからいま●●委員が言われたような事を例えば7月の時に、一定の結果報告はこれの報告は報告ぐらいに留めておいて、次へのこれから1年間、我々の任期はあと1年ある訳ですから、その議論を中身をどうするか、その辺の事とそれとさっき言われた参考事例なんかも、きちっとやっぱり収集して、他町村であってても、我が町との比較をして見て、こう言う事がやっぱり可能じゃないのかと言う資料のまた作成についても、やって頂いて次回の会議でそういう事への移行を図って行きたい、よろしいですかそういう事で。

(事務局)

○4ページの報告事項2と言う事で、今皆さんから色々出た事なんですけど、機会があるたびに、この案は出して行くと言う事で報告してありますので、色々準備しておいて頂ければと思います。今年は年4回を計画しました。本来なら総合開発計画の審議会は3回なんですけども、こちらの方は1回多いと言う事は、一度は開発計画の審議会の方々と合同の

会議等も開いてですね、やはりお互いに意見交換して明るい話題でも作って頂ければなと思います。それと次回の会議については、決算が終了するのが5月の末なので、6月1ヵ月でまとめたとしても7月くらいが早い状況じゃないかなと思いますので、7月をいま目標に頑張っていきたいと思います。それと検証の関係ですけど12ページから23ページまで色々ありますので、始めて委員になった方もいると思います。だいたいの数字等をこう言うもので確認してですね、検証して頂ければと思います。今日色々とお話しました。色々皆さん夢を描いて頂いてですね、7月の開催に向けて行きたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

(委員長)

○外に最後に何かないですか。

(委員)

○最後に一つ質問します。この22年から26年まで作りましたよね、1年目の検証が終わらない内に、もうその今度のいま言ってるような、23年度からもうこれがどんどん変わって行くような数字をどんどん出して行っても良いと言う事だね、こだわらなくて良いと言う事だね。

(委員)

○そう言う事ですね、今の皆さんの意見は。

(委員)

○今の話の中では、そう言う話ですね。それで認識して行ってもいいんですね。

(事務局)

○そのためのローリングと言う、開発計

画のローリングと言うものがありますので、色々提供して頂ければ、議論も。

(委員)

○何か聞いていれば、趣旨が非常に曲がって行ってるような気がするんですね。

(事務局)

○いや、そう言う訳ではないです。

(委員)

○まず一番最初の第1回目の委員長の挨拶は、自立プランでこうやって来ましたと、なお且つもっと削りたいんだと、もうちょっと削って、削る所があったら削りたいと、で、町の基金をもう少し積みたいと言うようなニュアンス的にも私は取っていた、それで今これが終わって、まだ用意ドンでスタートしない内に、スタートしない内にだよ、もう次の方に移行していいものかと思っていた訳、けど皆さんの話を聞けば、もう次の年から移行してもいいと、そう言う話でいま聞いた。それを確認だけ取りたいの。じゃこの数字にはもうこだわらなく、色々な部分で夢と言うか、これから町が希望を持てる事をどんどん、うちの方から出して行ってもいいと言う事。

(事務局)

○それは要するにそれで、議論になると思うんです。ですからローリングと言うものがありますので、それでやはり町の財政の都合も色々考えながら検討して行くと言う事で。

(委員)

○だから、その財政と言うならば1年目も終わらない内に、そう言った方の話をして行って良いのか、俺はいま思ってい

るのは1年目が終わって、それで皆で検証して、お、うまく行ったなと、じゃうまく行くなら次はこう言うステップに進めるんじゃないかなと言うのが、ステップだと思う、1年目が終わらない内にステップに入って行けば、夢ばかり追って砕かれた時には大きいと、そう言う事でしょう。

(委員)

○いや、違う。

(委員)

○1年目はまず検証して、これはまちづくり推進会議で、この会議は間違っていなかったよと、じゃ今度は少しでも、2年目からは夢を与えて行こうじゃないかと言う話なら分かるんだけど、なにも終わらない内にどうなのか。

(事務局)

○説明が足りなかったんですけども、自立プランの。

(委員)

○数字は何も関係ないと言うから。

(町長)

○そう言う事でなく、やはりこの計画は計画で大事なんですよ、まず基本的にこう言う計画で、向こう5カ年やって行きますよと、これが大事なんです。ただどこまでも目減りして行くような基金の状態だし、それじゃ町の人が福島に住んで良かったとか、浜の人が良かったとか山の人が良かったとか、そう言うような要するにこれからの町をどうするかと、そう言う議論と言うのは、今までは削る事と将来の財政推計で取りまとめして来た会議、それが主でした、数字を追いかけて

て来た、今度はそう言う中で、これは筋目筋目で検証もしなきゃならない、これに基づいた、だけど一方ではもっとこうしなきゃいけないかとか。

(委員)

○それは言っている事は分かるんだけど、私的な考えで行けば、まずこれを、基金を少しでも残すような考えで削るものを削って行ったと、だったら1年目はそれに対しての検証が必要じゃないかと思う、その検証だけでも、素人なんだから検証して行くだけで精一杯だと、検証しながら、あ、ここはうまく行ったと、上手く行かなかったからここはどうしたら良いと言う話になると思うんだけど、それに対してもう一方の町に対して夢を与えるような事を、二つを一緒に器用ではないから、こちらは難しいと思う、あくまでも素人ですからね、検証だけで精一杯なんで、その数字が動く事をこっちは数字が動く話をしている訳だ、こっちはこっちの数字をこう言うように話をしている訳で。

(委員)

○両者言われている事は分かるんですけども、もう少し今まで決めた事に対して重点を置いて考えて行っても良いんじゃないかなと、夢を追うのが悪いと言っているのではない、せっかく今まで決めて来た訳ですから、ナマコの放流にしたって2カ月や3カ月で結果が出る訳ではない、で、26年度までのスパンで見ている訳で、町長が言われるように、年2回の検証は必ずやってほしいと言う事ですから、少し今まで決めた事に対して決めって行って欲しい、それと並行して行くのはいいんですけども、ただ力的に苦しいんじゃないかなと。

(委員)

○タイムスケジュールと、今のこの予算と5カ年の最終目的の残して行くお金と、タイムスケジュールは何かと言うと、新しい案を出そうとした時に、例えばいま来年の検証になりますよね、すぐに来年度で検証は検証でいいんですよ、その間そしたら金を使うかと言ったら、例えばこう言う事をやろう、ああいう事をやろうと言うのは案ですよ、お金は伴わないですよ、1年や2年では。

(委員)

○案はいいんですよ、検証するのもいいんですよ、アイデアを出すのもいいんですけども、今まで決めたものを、まだ種を蒔いたばかりじゃないですか、これに対して考えて行くべきでないのか。

(事務局)

○自立プランと言うものがあって、自立プランに変わってこのまちづくり推進会議と言うものが出来たので、21年度も続いている訳ですね、ですから続けて行っていると言う事で理解して頂けないでしょうか。

(委員)

○いや、続けて行っているのは分かるの、続けて行っている中で、だったら自立プランでそのままやって行けばいいでしょう、だけでもこのまちづくりに変えたと言う事は、またそこで線引きは一回は入っている訳だ。

(事務局)

○そうですね。

(委員)

○線引きが1回入った中で、じゃもう1

回見直しをかけると言う事でやった訳だ、で、一番最初に●●さんが話した時に夢のない話しか出来ないのかと、そうじゃないよこれからは、1回これをして計画に乗り次第、夢のある話をどんどんして行こうじゃないかとその話も覚えている、●●さんが入っている事は良い事だと思っている、但しこの1年目はまだ22年の4月1日になって始めて走る訳だ、その走らない内に、今後の福島町をどうしたら良くなる、こうしたら良くなると言うよりも、まず自分達がやった事に対して責任を持って、これを検証して行った中で行くのが本来でないのか、それで、ま、途中で仮にうまく行ってたと、今年の12月になったら、これうまく行きましたと、じゃ計画通り多分26年度に進むでしょうと、だったらその中でこう言う事をやっても、ああいう事をやってもこれだけのお金が残って行くんじゃないかと言うものをやって、始めて現実化だと思う、ヨーイドンから始めた時に8億5千万残る所が、7億5千万しか残らなかったと、突発的に何かあった時に。

(委員)

○お金を食い潰しながらやるという事ではないんですよ。

(委員)

○検証して始めて、実現性があるのじゃないのかなと、だから夢物語とかそんな事で話しても、幼稚園の生徒でも先生でも。

(委員)

○そんな事ではないでしょう。そんな無茶な話では。

(委員)

○俺が言いたいのは、必ずこれをやればうまく行くよと、こんな事をうまくやれば町民に夢を与えられるよと、その時にじゃ、お金は1年目で多分計上した中で、これは多分このまま行くなと、そう言ったものを踏まえて始めてそう言った、町民のためにじゃ5千万投げて大丈夫だなと見返りなしの、最終的に2億7千万残ると言う検証が成り立つ、今の段階では検証も成り立たない、だから話をして行って一発で崩れるよりも、ちゃんと検証をして、自分達の仕事をした中で、これならこれでいいだろうと、じゃ今度は町に夢を与えよう、産業に夢を与えようと言うものが始めて出て来る。それは個々の考え方の違いだから、どう言うふうに取り替えても結構なんだけども。

(委員)

○検証は大事なんですけども、この1年間を終わらないと、1年間の使った金額は出ませんよね、ですから実質的な検証は来年になりますよね、で、ここ1年間は、例えば今年1年間については全然私も多分、●●さんもそうだと思うんですが、この数字を無視しろとかと言う事は一切言ってないです。そう言う考えではないんです。何か夢を求めてその現実を持って行くためには1年、2年では当然出来ません、その芽を今年、話の芽を今年作りたいと言う訳です。

(委員)

○その言っている事はものすごく分かる、うちらも勿論それはやりたい、やりたいけども、一応これを引き受けた時には、町の財政を良くしようと思って引き受けている訳で、だからその芽を作るのもいいし、それは個々に自分の腹で考えてお

くものだと思う、公の場でしゃべるのではなく、皆で揉むのではなく、個々で皆の腹で、●●さんなら、●●さんは農業の方でこう言うふうにしてやる事がいいだとか、それを個々の中で考えた中で、今度はその検証が終わった中で、今度は発言を皆に求めて行って、良いよ、悪いよという判断をして行った方が、物事は早く進むのではないかと、皆がしゃべれば、ちらっと思っただけでね、それは。

(委員長)

○一年間掛けて自立プランそのものの、最終的な数字の確認と、そしてその自立プランの中でやって来た事業そのものを、全部部会に分けて洗ってそしてこの推計表は出て来た訳ですよ、その過程でもって、自立プランそのものの検証をする事が、いわゆる第一義的な形として1年間やって来て、その中から22年度からの方向性を見出そうとしている、で、それが我々委員会でやって来た事だと思うんですよ、その結果としてこれが出て来た、これはこの数字として提言し、そしていま恐らく、この議会でもって町の方向性の財政的な方向性として位置付けられて、これでもって行くんだらうと思います。我々の責任とすればそれが1年経った時に、いま●●委員言われるように、この経過そのものと1年毎の結果そのものを検証する責任は我々にあります。もう一つは自立プランの作成の時とこの委員会の性格は違う事は、その財政のそう言うふうな動かして行く形の中でもって、きちっとこのまちづくり条例そのもので、町の方向性をも新たに提言し、見通して行かなければならない。

(委員)

○それが分かっているから、●●さんが

言う事も、●●委員が言う事も良く分かると、それはうちらもそうなんです。だけれども器用じゃないから、自分は不器用ですから。こう言うふうに検証するとなれば、とことんそっちの方にのめり込んでしまう。これをやる時でも一つ一つやっても、何回会議を開いたか、検証と言うのはもっと難しいと思うんだよね、2回、4回予定しているけども、それで全部時間を取られてしまう、そっちの方に頭が集中してしまう、外はもう考えられない。

(委員)

○検証が入るのであれば、いまのようなピッチで検証して行ったら、全然検証にならないと思いますよ。もっと細かく、詳しく、深くやって行かないと、と、思いますけど。年4回くらいの会議で、いいよと言うのであれば、それはそう言う検証の仕方でもいいでしょうけども、ちょっと地に足が付いてないのかなと言う気がします。事業を行うという立場で考えれば。

(委員長)

○その意味からすると、非常に膨大な話で、中身そのものから言うと、ですから自立プランを作成する時だって10ヵ月以上かけて、それこそ月に1回とか、2回とかのペースでもって、各部会に分けてやったと、今回そのもののやり方として部会の中で6ヵ月以上掛っている訳です。二つに分けて、で、こうやって2年なら2年の我々の任期の間の事であっても、恐らくそれはそれとして走らせて行きながら、2年後に我々の任期が切れる時には、またその形をある程度時間を費やして、結果検証をしなければならぬのだろうかと、私はそう言う思いでい

るんです。ただこの2年間の中で、先を財政的な裏付けの所に立脚した形でもって、次の方向性を見出すような格好でもって任期を終わりたいと言うか我々の責任を果たしたい。

(委員)

○2年目でそれをやりたい訳、1年目と言うのは、まず初めての人もいるだろうし、だからこの検証だけで、手一杯じゃないかと、うちら仕事は出来ない訳だ、そうなるそう言うふうにやってる余裕はない、ましてやこれは9時、10時まで出来る会議ではない、次の日の仕事に差し支えるからそれもまた困る、私ごとと思うけれど、ただどこにいる人は皆仕事を持って人達ですから、これだけに没頭したいために、そう言う話をするのであって、おろそかにするのであればどうぞやって下さいと言う話になる。

(委員)

○また、そのくらい検証しないと、●●さん言われるように、この事業は行けるよと、1千万突っ込もうか、2千万突っ込もうか、いや1億突っ込んでもいいんじゃないか、そう言う判断は出来ないと思いますよ。

(委員)

○いやいやだから、そう言うね土壌作りと言うか、折角のメンバーがあって、そう言うまちづくりですから、予算が決まったものを査定するのは、極端な事を言ったら16人なんか必要ないんですよ、もう決まったもんですから、監査委員がなんか5、6人でもって、この作った予算で本当にされるかどうかと言ったら、それに興味のある人と言うか、今まで携わった人の中でも、監査委員でやればい

いんですよ、極端な事を言うとお金の事だけ検証するんだっただよ、16人でやる事ないんですよ、もう決まった事ですから、あとその数字がどうやって動いたんだ、なんで年度で閉めた時に、俺達が考えたものより50も多く出たんだとかと言うようになれば、それは項目でしょう、それを動かしたのは役場の、要するに執行の方で動く訳ですから、いや実はこうでしたと、その説明でもって、要するに監査委員みたいなものですよ、委員会みたいなものですよ、で、それはそれだからそれは一本のルール、だから僕が言っているのは、もう一本ルールを開いて、それはそれだけど、5ヵ年計画ですから5ヵ年の、来年からやると言っているのではないですよ、その夢物語、腹の中に納めておいて、いよいよ3年目くらい、皆でございござい話している内に、よしターゲットをそれにしようかと例えばまとまったものが3年後かも知れない、それじゃ福島町のために良いかも知れないと、したらそれは金が掛るなど、したらこの5ヵ年計画の中で、3年目でもって例えばここで4億6千万円残るけど、その4億6千万円、監査やって行ったら確かに残っていると、そしたらその事業をやるために5千万円引っ張り出してね、例えば3年目だよ、そして後期さらに5ヵ年計画、これの、そのの足しになるような事で、俺達やろうじゃないかと言うような、そういうルールをもう一本引いたらどうですか、だからいま●●委員言うように、来年からすぐとかさ、ああだとかじゃなくて、そういうタイム的なスケジュールはあると思うんですけど、やっぱり皆からそういう意見を出し合いながらね。

(委員)

○言ってる事はよく分かるの、4年目、5年目にやると言うのは分かっているの、分かっているけど、まだ自分達がやった事に対しての検証が出来てない内に、そっちの方へ移るだけの器用さがないと言うことをしゃべっているだけで。

(委員)

○器用さとか器用でないとかと言われれば、それはそれで、あれですけど考え方としてはそう言う考え方は分かると言っている訳でしょう。

(委員)

○腹は、あれはやりたい、これをやりたいといっぱいもっている訳ですよ、組合の代表として来ている訳ですし。

(委員)

○暇な人は勝手にやれと言うような物の言い方をしたもんだから。それはこの委員会で言う事じゃないのではないか。

(委員)

○暇な人とはしゃべっていない。

(委員長)

○検証を後回しにしてとか、いわゆるそう言う議論を卓越的な議論の範囲じゃなくて、そして我々やっている事はやっぱり評価だとか、検証そのものが第一義的にある訳だから、だからいわゆるさっき言われた7月の時には、そういう事を今年度の決算が6月でもって出て来ると言う事で、これとの睨み合わせでもって、そのの所はまず第一義的にきちっと数字的な所は押さえようと、その上でこの事業の中に登載されているものもあるし、また新たなものについても、意見があればその時にあれしながら、その我々の任

期の時にこの数字が動かせる、動かされないは検証の結果として出て来る話であって、そういう議論もこの中にかみ合わせて行かないと、数字を追っかけて出来たの、出来ないの、これなんで駄目だったのと言う議論だけじゃなくて、お金があるんであればまた財政の出動の方向性を次の時からは、こういう方向性で出動させて見たらどうなのかと言う提言も加えて行きたいと言う、そういう範囲で議論したらどうなのかなと言う思いなんですけども、どうですかね。

(委員)

○それはそれで構わないです。

(委員長)

○ではその辺で、また応援基金の方の事についても、使い道についてはこれはまた、ある意味で言うと自由にと言ったら変ですけども、町のためにどう使うかと言う、そういう範囲のお金なので、その辺の事も7月くらいには、ご意見を頂ければと思いますのでよろしくお願い致します。その辺でまとめて行きたいと思いません。それでは今日はこれで終わりたいと思いますがよろしいでしょうか。

(はいと言う声あり)

(委員長)

○色々出ましたけど、本日はご苦労様でした。以上で終了します。

(閉会 19:22分)